



## 多様性と調和 ~パラリンピック②~

昨日に続き、パラリンピアンのお話です。

始業式で話したように、東京2020パラリンピック陸上競技に糸我小学校・文成中学校出身の生馬知季選手が「100m(T54)」と「ユニバーサルリレー」に出場されます。



プロフィールを紹介すると、生馬選手は先天性の障害で幼少の頃から車いすを使って生活していました。文成中学校入学後、車いすのバスケットボールを始めます。高校生になってから陸上競技に転向しました。和歌山県庁の職員に採用された後も競技を継続。ふるさとの川総合公園などで練習を積んだそうです。2015年の和歌山国体でも活躍されました。その後、さらに競技に集中するため、岡山市の民間企業に入社しました。同社でパラリンピックに3大会連続出場した車いす陸上選手、松永仁志さんの指導の下、国内外の大会で好成績を挙げるようになり、2017年にロンドンで開催された「世界パラ陸上競技選手権大会」では100m(車いす男子T54)で決勝進出を果たしました。200mでは日本記録も保持しています。

生馬選手は、私の息子と中学校の同級生です。息子が中学校3年生の体育大会を見に行った時のことです。男子4×100mリレーに生馬選手が出場しました。スタート位置まで、別の男子生徒が車いすを押してやってきました。この後、その男子生徒が生馬選手の車いすを押して…と思いきや、生馬選手がその男子生徒を肩に担ぎ、自分で車いすをこいで走ったのです。一瞬、何が起こったのか理解するのに時間がかかりました。「車いすでリレーに参加＝介助する人に押しってもらう」というような発想しかなかった自分がとても恥ずかしくなりました。昨日の「やすちゅう」に「発想の転換が必要」と書きましたが、まさにこのことだなと感じています。

ちなみに、私の中にはこの時の光景と驚きが今でも鮮明に残っています。ところが十数年前のこの出来事を息子は覚えていないのです。つまり、生馬選手と毎日一緒に過ごしている同級生には特に珍しいことではなく、「知希だったらそのくらい普通やん。」という感じなのです。

障害がある方がいれば、何かお手伝いできることはないかと考えるのは当たり前のことですが、私たちが勝手にこんなことできないかも…と決めつけてはいないでしょうか。多様性と調和、共に生きるためにはお互いによく理解し合うことが大切だと改めて感じています。

いよいよ明日9月1日は100m(T54)、そして、3日のユニバーサルリレーもエントリーされてほしいですね。頑張れ! 生馬選手!!

